

F¹ MKS-T820 F¹ MKS-T821

黄化葉巻病耐病性の‘小鈴シリーズ’新品種



みかど協和株式会社

共通品種特性

1. 中葉で節間は短く誘引作業の手間が少ない。草勢が強く、厳寒期でも安定した草勢を維持しやすい。
2. 花房は3-4段目前後付近からダブル花房になることが多く、着果性が優れる。
3. 果実は濃赤色でやや光沢があり、へたが取れにくく荷姿が非常に美しい。
4. 裂果は極めて少ない。果実は硬く、収穫、調整時の作業性や輸送性、店もち性に優れる。
5. 食味は甘みと酸味のバランスが良く、コクがあり美味しい。

小鈴シリーズ特性比較表

耐病性以外の基本特性に関しては、MKS-T820はCf小鈴・TY小鈴に準じ、MKS-T821は小鈴エルに準じます。

	草勢	節間長	葉	花数	大きさ	耐裂果性	斑点病耐病性	TYLCV耐病性
MKS-T821	強	やや短	中葉	20-25	18-22g	高	○	○
MKS-T820	強	短	中葉	25-30	15-20g	高	○	○
TY小鈴	強	短	中葉	25-30	15-20g	高	×	○
小鈴エル	強	やや短	中葉	20-25	18-22g	高	○	×
Cf小鈴	強	短	中葉	20-30	15-20g	高	○	×

栽培のポイント

1. ほ場準備

事前には場の土壌診断を行い、適切な肥料設計を行う。土壌条件や残肥の量により異なるが、元肥量の目安は窒素成分量で10kg/10aとして施用する。元肥が多過ぎると定植後の芯止まり症や異常茎の原因となるため注意する。

2. 定植

若苗定植は草勢が強くなり過ぎ、芯止まり症や異常茎の原因となるため避けることが望ましい。第一花房の第一花のがく割れ～開花を目安として定植する。高温時に定植する場合、活着するまでに株元に少量多回数の灌水を行い、必要に応じてハウスの軽い遮光を行う。活着後は灌水を控え、根張りを良くし、過繁茂にならないように注意する。

3. 栽培管理

液肥の場合、月にN成分合計3-4kg/10aを3-4回に分割してこまめに施用する。置き肥の畦肩や通路追肥はできるだけ緩効性の肥料を使用する。促成栽培では12月中旬頃からやや強めの草勢に管理し、厳寒期の草勢維持を図る。高温期に関しては着色不良果の発生を防止するため、過剰な追肥は避けると共に必要に応じてハウスの遮光を心がける。

耐病性・病害虫の防除

ToMV (Tm-2^a)、萎凋病レース1、葉かび病 (Cf9) に耐病性強。TYLCV(イスラエル、マイルド両系統)、ネコブセンチュウに耐病性中程度。斑点病に耐病性中弱。

黄化病、黄化えそ病、キュウリモザイクウイルスには耐病性を持たないので、コナジラミ、アザミウマやアブラムシなどの防除を徹底する。黄化葉巻病に中程度の耐病性を持つが、高温時や生育初期は発病しやすくなるため注意する。

葉かび病の耐病性はCf9であるが、それを侵す新しいレースが発生する地域があるので、防除を行う。

青枯病の汚染ほ場では、足じまんSS、褐色根腐病対策には足じまんZを用いて接木栽培をする。



みかど協和株式会社

国内営業本部

千葉県緑区大野台1丁目4-11

Tel:043-311-6100 Fax:043-205-5501

北海道支店 札幌市中央区北3条東3丁目1-30 KNビル3階
Tel:011-232-9566 Fax:011-232-9577

西日本支店 名古屋市西区那古野2丁目18-4 ミヤタビル5階
Tel:052-581-5133 Fax:052-571-0486

南関東支店 千葉県緑区大野台1丁目4-11
Tel:043-311-6200 Fax:043-205-5501

九州支店 熊本県菊池郡菊陽町大字原水855-2
Tel:096-273-8270 Fax:096-273-8343

東日本支店 東京都台東区柳橋1-26-6 サンブリッジビル3階
(関東甲信越) Tel:03-5833-5700 Fax:03-5833-5701
(東北) Tel:03-5833-6100 Fax:03-5833-6101

袖ヶ浦農場 千葉県袖ヶ浦市川原井2069-40
Tel:0438-75-6838 Fax:0438-75-6198